2025年度 ヨーロピアン・スタディーズ EUキャンパスプログラム募集要項

1.概要

ヨーロピアン・スタディーズＥＵキャンパスプログラムは、テュービンゲン大学が提供する Tübingen International and European Studies（以下 T-IES）科目（6 科目）と本学学部が設置する科目（4 科目）で構成される、本学学生用の教育プログラムです。本学の海外キャンパスであるＥＵキャンパスでのプログラムとなりますので、その特色を生かし、英語で学びながら、同時にテュービンゲン大学の多様な国籍の学生との共修を通じ、ドイツやヨーロッパへの理解を深めることを目的としています。

期間：2025年9月1日(月)～2026年1月31日（土）

プログラム定員：約15名（最少催行人数10名）

プログラム費用（1名）：約60万円

※為替やプログラム費用等の変更により参加費は変動する可能性があります。

※上記参加費に対し、別途、大学から奨学金が支給されます。

※上記に渡航費は含まれていません。

2.科目一覧

科目名	言語	担当者	科目区分
Intercultural Communication	英語	Franziska Krauße-Wang	テュービンゲン大学 T-IES 科目
The Political System of the EU and its Politics	英語	Jan Battke	テュービンゲン大学 T-IES 科目
European Politics of Human Rights	英語	Germana Favognano	テュービンゲン大学 T-IES 科目
Regional Economic Integration -The Case of the EU	英語	Daniel Pauser	テュービンゲン大学 T-IES 科目
Sustainable Development: History, Concepts, Policies	英語	Simon Meisch	テュービンゲン大学 T-IES 科目
Religion and the Challenge of European Identity	英語	Lucas Ogden	テュービンゲン大学 T-IES 科目
ヨーロッパの宗教 European Religions – Jewish Women in Modern Europe: A Historical and Cultural Perspective	英語	Ada Cohen	神学部提供科目
政策トピックス Policy Issues – The Future of Trade Governance and Sustainable Development: Where do Sustainability Standards and Certifications Go?	英語	岡本　由美子	政策学部提供科目
政策トピックス Policy Issues – Introduction to European Integration issues	英語	吉田　徹	政策学部提供科目
文化情報学トピックス Topics of Culture and Information Science -Digital view of EU and Europe- Culture and Society-	英語	鄭　躍軍	文化情報学部提供科目

※単位数：各2，すべて秋学期科目

※T-IES 科目は 2024 年度実施の参考情報です。科目名、担当者、科目内容は変更される可能性があります。同志社大学提供科目は 2025 年度実施予定の情報です。

★費用は15名参加した場合の予定金額です（**渡航費等は含まれません**。詳細はP.10をご覧ください）。為替やその他プログラム費用等の変動により5～15万円前後、金額が変わる可能性があります。なお、上記参加費に対し、別途奨学金が大学から給付されます。

3. 募集説明会等

（１）募集説明会：2024年12月3日（火)、12月4日（水）　12:30～13:00

今出川校地：両日程　　至誠館２番教室（S2）

京田辺校地：両日程　　知真館１号館232番教室（TC1-232）

※12月3日は京田辺校地から、12月4日は今出川校地から遠隔配信にて両校地で実施します。

（２）座談会：2024年12月9日（月)、12月10日（火）　18:30～19:30

2024年度プログラムに参加中の学生との座談会（オンライン）を実施します。プログラムに関する疑問（科目履修、学生生活など）などにお答えいたします。

ID：853 6586 2825　パスコード：453188

4. 出願資格

（１）対象：学部学生

※国籍は問いません。

※候補生に決定した学期末時点で、同志社大学において２セメスター修了且つ30単位以上を修得している必要があります。テュービンゲン大学から入学許可が下りた場合でも、当該基準を満たさない場合は、留学に行くことができません。

※募集人数に達していない場合は、大学院学生の出願を認めることがあります。
出願にあたっては事前に国際課までご相談ください。

（２）英語要件：TOEFL iBT® 42～、IELTS™ 4.0～、実用英語技能検定２級（CSE1950）～

※出願の最低基準として、上記いずれかの試験における英語能力証明書の提出が必要です。
なお、出願時に有効（試験実施日から２年以内）であることを確認してください。

（３）ＧＰＡ：2.00/4.00 以上

※出願時の累積GPAの最低基準は上記のとおりです（大学院生については、2.50/4.50）。

5. 出願受付【時間厳守】

（１）出願期間

2025年１月８日(水）0:00:00～2025年１月９日(木）17:00:00

（２）提出書類

①志望理由書（所定様式）

テーマ：①プログラムへの志望理由および目標 ②留学準備および留学中における英語ならびに専門科目の学修計画 ③ＥＵキャンパスプログラムでの学びを将来にどのように生かしたいか

書　式：2,000字以内

②誓約書（所定様式）

※保護者の署名が必要です。

③成績証明書

※和文、出願年度春学期までの成績が含まれた証明書

④英語能力証明書（原本のコピー）

※出願時において有効（試験実施日から 2 年以内）な英語能力証明書を提出してください。

※TOEFL iBT® は「Test Date スコア」で要件を満たす必要があり、「MyBest®スコア」での出願は認めない。また TOEFL iBT® Home Edition のスコアは受付不可。

※IELTS™ スコアはアカデミック・モジュールのみ受け付ける（ジェネラル・モジュールのスコアは受け付けない）。また IELTS Online や IELTS One Skill Retake のスコアは受付不可。

※①、②の様式は、国際課のホームページからダウンロードしてください。

（3）出願書類提出先（オンライン提出）

（2）のすべての書類（②、③、④書類はスキャンのうえ、PDF データに変換）を以下のリンク先に提出してください。

ファイル名は必ず以下のとおり揃えてください。

学生 ID_氏名_提出書類名.pdf （提出書類名は上記（2）記載の①～④のとおりです）

例：1099241976_新島襄_英語能力証明書.pdf

提出先リンク：https://forms.office.com/r/u6RGEngXgj

6. 選考と候補者発表

選考は、各評価項目（英語能力、GPA、面接）に基づき、総合点の高い出願者から順に選出します。選考方法（面接試験を含む）と候補者発表の日程は以下のとおりです。

（1）面接試験（オンライン面接および対面面接）

実施日時・場所

①2025 年 1 月 15 日（水）～1 月 17 日（金）17 時以降：オンライン面接（英語で実施）

②2025 年 1 月 18 日（土）終日：今出川校地扶桑館で対面面接（日本語で実施）

※日時および方法は国際課から対象者に連絡いたします。面接により使用言語が異なりますが、志望理由書に基づいて応答ができるよう準備のうえ、臨んでください。

※オンライン面接はテュービンゲン大学の担当部署（T-IES）が実施します。グループディスカッションおよび個人面接を予定しています。面接にあたり、必要な情報環境（PC,ヘッドセット等）は各自、準備していただく必要があります。

※面接時には学生証を持参し、面接官の指示に従って提示してください。

【面接の評価項目（評価のポイント）】

① 「留学の動機（志望動機、ＥＵキャンパスプログラム参加の目的、ＥＵキャンパスで学ぶ意義を理解しているか）」

②「留学における履修計画と本学における教育課程との整合性（卒業に向けた明確な履修計画を持っているか）」

③「ドイツ・テュービンゲンの予備知識（留学に際し、当地の状況やドイツやテュービンゲン大学等について、十分に調べているか）」

④「留学生活への適応力（社会性・積極性など）（テュービンゲン大学での新しい環境の中で、異なる授業スタイルへの耐性、課外生活、私生活をおくっていける積極性、社会性、適応性が感じられるか）」

⑤「留学準備における英語力向上のための学習計画（プログラム開始まで、およびプログラム開始後も継続して英語を学習し、語学力を向上させる意欲があるか）」

（２）選考方法

- 英語能力測定値（100 点）、GPA 測定値（100 点）、面接評価測定値（100 点）の合計（満点 300 点)で選考を行います。
- 英語能力測定値：P.11 の基準にて英語能力測定値に換算します。基準点未満は出願不可です。
  GPA 測定値：60 点を基準点とし、20×GPA＋20 点で算出します。基準点未満は出願不可です。
  ※大学院生を受け付ける場合は、GPA の満点が 4.5 であることから、20×GPA+10 点で算出します（基準点 60 点＝GPA2.5）。
  ※応募時現在の学籍において GPA を算出することができない場合、現在の学籍の前の学籍における GPA を用いる等の対応措置をとります。
- 面接評価測定値：60 点を基準点とし、基準点未満は不合格とします。

（３）候補者発表：2025 年 1 月 31 日（金）10:00 頃

※Go Global ポートフォリオにて発表する。

7.参加費納入

プログラムへの参加が決定した方は、参加費を納入する必要があります。詳細な納入金額と期限は参加決定者へ別途連絡します。

※プログラム費用の高騰を考慮し、納入いただく参加費用には予め数万円の予備費を含んでおり、差額が生じた場合は帰国後に返金します。

8.合格者オリエンテーション・説明会

日時：2025 年 2 月 6 日（木）：終日

場所：今出川校地、教室・時間等の詳細は改めて連絡いたします。

※第 2 回オリエンテーションは、4 月下旬頃を予定しています。

9.留学前準備プログラムについて

プログラム参加者は、必ず以下の講座の受講および試験を受験する必要があります。プログラムの一環として実施する留学準備講座・試験のため、欠席は原則として認められません。詳細は、改めて連絡いたします。

【IELTS™ Pretest】

2025 年 2 月 6 日（木）

【IELTS™対策講座】

2025 年 4 月 8 日（火）または 9 日（水）10 時～15 時：オンラインで実施

【T-IES オンライン英語授業（Doshisha English Communications)】

2025 年 4 月～7 月までオンラインで週 1 回（水曜日、6 講時）実施予定

【IELTS™】

2025 年 7 月 26 日（土）

※今出川キャンパス内テスト会場にて受験
【アカデミック・イングリッシュ講座（留学前総括）】
2025年8月にオンラインで連続4日間実施予定（日時未定）

※TOEFL®、TOEFL ITP®、TOEFL iBT®、TOEIC®はエデュケーショナル・テスティング・サービス（ETS）の登録商標です。

10. 出発前 危機管理オリエンテーション

日時：2025年7月上旬の日曜日に実施予定
場所：今出川校地（教室は決定次第連絡いたします）
※プログラム参加者は、上記のオリエンテーションに必ず出席する必要があります。

11. 奨学金

「ＥＵキャンパスプログラム履修者に対する奨学金」が設けられております。これはプログラム費用のうち200,000円を奨学金として給付（返還不要）されるものです。詳細は、改めて連絡いたします。

12. 科目登録

ヨーロピアン・スタディーズＥＵキャンパスプログラム科目は全て受講必須です。

テュービンゲン大学提供のT-IES科目は単位認定科目であり、現地で修得した単位は、帰国後に所属学部窓口にて単位認定を申請することになりますので、事前の登録の必要はありません。T-IES科目は「テュービンゲン大学IES科目」または学部が教育上有益と認めた場合、指定する科目に単位認定されます。科目履修・単位の取扱い等の詳細については、所属学部窓口で確認してください。

本学学部設置科目の登録は大学が一括して行うため、事前の登録の必要はありません。

13. 科目概要

テュービンゲン大学T-IES科目 —Intercultural Communication
＜概要＞ This course is designed to provide international students with a set of skills to understand transnational experiences and develop cross-cultural dialogues. We will discuss how cultural estrangement can promote a deeper understanding of foreign cultures and our own. Through ethnographic walks, audiovisual work, museum visits, art, and culinary experiences, students will develop various tools to navigate their intercultural experiences and gain a critical and reflective perspective on culture.
テュービンゲン大学T-IES科目 —The Political System of the EU and its Politics
＜概要＞ In the aftermath of the Second World War, for the first time in European history, former enemies created a political union in order to coordinate their economic and political activities. Among them was Germany, the nation responsible for the unparalleled destruction that the war brought to the Old Continent and beyond (again), and the nation whose people planned and carried out the worst crime and horror the world has ever seen: The Holocaust. Over the past decades, what is today known as the European Union (EU) gradually led to the emergence of a supranational political system with Germany as one of its core members. Although today the European Union still is

not a “real” state, it is not only made up of 28 (27) sovereign European nations but also of the EU’s very own institutions, such as the European Commission, the European Parliament (EP), and the European Court of Justice, which all possess unique powers to shape the lives of more than 500 million citizens in Europe every day.
This course will introduce students to the history and the political system of the EU - its institutional set up and how it works in general. Furthermore, classes will discuss the significant role Germany has played and plays in Europe and how Germany’s path through the second half of the 20th century, from a nation divided to a reunified country, shaped not only the legacy of a nation but that of an entire continent. Current issues and challenges - including Russia’s war against Ukraine, Brexit, migration, and right-wing populism - regarding both Germany and the EU, will be covered as well.

テュービンゲン大学T-IES科目 —European Politics of Human Rights

＜概要＞
The supranational political system of the European Union today has the power to influence the protection of human rights all over the world. This course will introduce students into the theory and implementation of human rights and to EU politics to assess and protect them by significant executive and legislative powers.
This course offers a great insight into comparative European Studies by focusing on human rights as a connecting principle between all countries and peoples around the world. The first part of the course will focus on the origin and history of human rights and will offer an overview on the most important international and European institutions and laws. After a short introduction to the political system of the European Union, the second part of the course will focus on real cases of human rights abuses occurring in EU countries. The students will be confronted with authentic problems and will discuss and analyze in class the problems occurring when trying to defend basic rights. Successful integration of different cultures will also be a topic of discussion.

テュービンゲン大学T-IES科目 —Regional Economic Integration -The Case of the EU

＜概要＞
As globalization and free trade agreements open economies and make then interdependent, the importance of international trade increases. Globalization has influenced many aspects of multinational companies, from type of product offerings, to production in low cost countries. Trade has also had an impact on multinational companies. Although the World Trade Organization tries to facilitate free trade, companies find it difficult to benefit from free trade under the World Trade Organization’s process due to its lengthy processes. This situation has pushed regional economic integration to the forefront. After a brief introduction into the topic of international business, students will learn about trade and trade restriction mechanisms. Afterwards, a focus will be put on regional economic integration, with the European Union as the example of the highest level of integration. The student group will benefit from its multinational composition by providing different perspectives and apply the theoretical concepts in interactive exercises such group work or case studies.

テュービンゲン大学T-IES科目 —Sustainable Development: History, Concepts, Policies

＜概要＞
In 1987, the United Nations (UN) World Commission on Environment and Development (WCED) (known as the Brundtland Commission) introduced sustainable development as a global vision. It famously defined sustainable development as a “development that meets the needs of the present without compromising the ability of future generations to meet their own needs”. Since the UN Conference on Environment and Development (UNCED) (or the Rio Summit) in 1992, all levels of government and most sectors in Germany adopted sustainability goals. Sustainable development was even introduced as a national goal in the German constitution. Meanwhile, it has evolved globally as a guiding principle and policy goal culminating in the UN Sustainable Development Goals (SDGs).
This course consists of three blocks. The first block deals with the conceptual origins and development of sustainable development: How did the WCED and the famous Brundtland definition come about? How did the global vision of sustainability develop since then up to the adoption of SDGs? The second block addresses ethical foundations of sustainable development: Why ought we to act in the spirit of sustainable development? What are

contentious issues? Finally, the third block focusses at specific sustainability (with the example of chocolate), nature protection & biodiversity, and climate.

テュービンゲン大学 T-IES 科目 —Religion and the Challenge of European Identity

＜概要＞

To what extent does religion contribute to shaping people' s identity and or/divide them in Europe today? Religion has played an important role in the development of European culture and identity, as evidenced by impressive church buildings as well as by religious themes in classical European art and music. The traditional concept of a "Christian" Europe has been both challenged and enriched by Islam and Judaism as well as by substantial criticism of the established churches. Today, the considerable drop in religious observance and belief has led many Europeans to embrace a "post-Christian" identity, while the presence of immigrant communities is making the continent more multi-cultural. Nevertheless, Christian churches continue to be officially supported by several European states, and movements encouraging a re-revitalization of religion have gained attention. In this course, we will address key questions and problems concerning religion in Europe and will also engage in critical analyses of art and music.

ヨーロッパの宗教

European Religions – Jewish Women in Modern Europe: A Historical and Cultural Perspective

＜概要＞

Within the subject of European Religions, this course will cover the Jewish community in Modern Europe, mainly from early 19th to the 21st centuries. Vast changes have taken place in European religious landscape during the said period, and it includes the Jewish communities. Women in Jewish society showed a crucial change and transformation due to their newly-gained possibilities of participating in public life. This refers mainly to the possibility of acquiring public education, which opened the way for women to study at institutes of higher education such as universities. The class will first cover shortly the historical developments that took place among the Jewish communities of Europe and then look particularly at Jewish women. One of the main approaches will be through the question: What strategies have Jewish women employed in order to assimilate into the broader European society and how they negotiated their various cultural identities. Such a perspective will therefore engage with discussion of gender issues that arose and persist in European societies.

政策トピックス—持続可能性を実現する通商ガバナンスのあり方：サステナブル認証の役割と今後

Policy Issues – The Future of Trade Governance and Sustainable Development: Where do Sustainability Standards and Certifications Go? –

＜概要＞

The theme of this class is " Where Do Voluntary Sustainability Standards Fit in the Future of Trade Governance and Sustainable Development?"

The multilateral trading system, which has the World Trade Organization (WTO) at its center, stands at a crossroad. Although the WTO is the only international organization dealing with global trade rules, the multilateral impasse has shifted some rule-making away from Geneva to regional trading agreements (RTAs) that cover new and broader areas and trade rules.

As a result of the failure of multilateral efforts to address both environmental and social issues, the voluntary sustainability standards (VSS), which consist of certification schemes, labeling programs, and private standards, emerged rapidly. Fairtrade and Organic Certificates and Standards are some examples. The 2030 Agenda for Sustainable Development, specifically SDG 17, identifies international trade as an engine for inclusive and sustainable economic growth. However, the expansion of international trade over the past few decades has fallen short of public expectations. VSS have risen as an important transnational governance tool to make global value chains more sustainable by incorporating social and environmental criteria into the production process.

Do VSS work? If so, how do they work? What challenges do VSS face? Do the WTO and RTAs compete with VSS or complement one another? In the current era of sustainable development, where is trade governance headed?

政策トピックス―欧州統合の基礎

Policy Issues - Introduction to European Integration issues

＜概要＞

European integration and the European Union (EU) have undergone various stages of development through repeated crises, but still play a vital role and have an important impact on the member states and the world that cannot be ignored in the new century.

The lecture aims to review the historical development of European integration and the EU, as well as the institutional functions and features of integration that have changed over time.

In addition, emphasis will be placed on the workings of the major member states, which have different national interests in each process. In addition, the focus will be on the meaning of regional integration in the post-Cold War era.

Concretely, the following topics will be included.

1. Origins of European integration
2. The development of European integration
3. Theories explaining European integration
4. the role of actors within the EU
5. developments in the major member states
6. public opinion in the member states and the EU
7. The EU as a post-national polity

The textbook assigned for this course is as follows: Simon Usherwood and John Pinder. The European Union: A Very Short Introduction, Oxford University Press, 2018.

文化情報学トピックス ―デジタルＥＵ・欧州論―文化と社会

Topics of Culture and Information Science -Digital view of EU and Europe- Culture and Society-

＜概要＞

For hundreds of years, Europe had suffered the tragedy of war many times before 1945. In particular, the center of the conflict was France and Germany in modern times. ECSC (European Coal and Steel Community), established in 1952 inspired by the "Schumann Declaration (Link is external)" which advocated the foundation of the mechanism of supranational Europe in 1950, was a starting point of present EU (European Union). In this lecture, while looking down at European countries, the first half focuses on looking back upon the pace of the EU, which is a regional integration affiliated with twenty-seven countries, and exceeding 450 million people. The second half concentrates on explaining the cultural and social histories and the present situations beyond the various histories, cultures, and social structures of European countries using the visualization based on statistical survey data. Main contents contain diverse aspects such as “Family and changing gender roles”, “Religion”, “Work orientation”, “National identity & Citizenship”, “Role of government”, “Social inequality” and “Environment” etc. At the very end of this lecture, we will discuss the essential issues such as what the EU is like. How has the EU been developing? What kind of social implications does the EU provide?

※T-IES 科目は 2024 年度実施の参考情報です。科目名、担当者、科目内容は変更される可能性があります。

14. 出願にあたっての注意事項

① キャンセルは、原則として認めません。参加について十分に考慮し、保証人の方とよく相談した上で出願してください。プログラムに参加することが決定した後にキャンセルをされた場合、費用納入前であっても、キャンセルに伴う費用を納入いただきます。
② 合格者数が最少催行人員に満たなかった場合、プログラムは実施されない可能性があります。参加者決定後、キャンセルにより参加者が最少催行人員を下回り、プログラムの開催が不可能となった場合も同様です。
③ プログラム出発前に、外務省の海外安全ホームページにて発表される感染症危険情報および危険情報「レベル２：不要不急の渡航は止めてください。」もしくはそれ以上が発出された場合、プログラムが中止となることがあります。その場合、納入いただいたプログラム参加費用の一部または全額をお返しできないことがあります。詳細は、参加決定後に連絡いたします。なお、プログラム開始後であっても大学長による帰国勧告等が出された場合は帰国しなければなりません。あらかじめご了承ください。
※外務省海外安全ホームページ＜https://www.anzen.mofa.go.jp/masters/risk.html＞
④ 為替レートの変動、スケジュールの変更、参加人数の変更により、参加費用が変わることがあります。事情により金額不足が生じた場合は不足金額分を追加徴収させていただきます。逆に、実費が徴収した参加費用を下回った場合は差額を返金いたします。
⑤ 参加が決定した方は、国際課が開催するオリエンテーションや説明会に必ず出席しなければなりません。とくに危機管理オリエンテーションについては出席しない場合、プログラムに参加できなくなることがありますのでご注意ください。その際発生するキャンセル料はご自身で負担していただきます。
⑥ 参加が決定した方は、留学前準備プログラム（P.4-5）への参加が必須です。
⑦ プログラム参加期間中の学籍は「在学留学」となるため、本学への学費の納入が必要となります。
⑧ 留学開始時の学年によっては、留学期間と就職活動の時期が重複する可能性があります。十分に考慮したうえで出願してください。
⑨ 参加にあたっては、参加者が本学に提出する誓約書による誓約事項を厳守いただきます。
⑩ プログラムへの参加が決まった方は、健康診断証明書が必要になります。
プログラムに参加する年度の４月初旬に大学で行っている健康診断を受診しなかった場合は、外部の医療機関等で健康診断を受けていただきます。その際の予約、健康診断証明書の発行はご自身で手配していただくことになります。受診項目については、プログラム参加者へ国際課からお知らせいたします。
⑪ 同志社大学外国協定大学派遣留学生制度Ｂ日程（追加候補者としての再出願含む）および 2025 年度セメスタープログラムとの併願はできません。
⑫ ＥＵキャンパスプログラムは全学部に開かれたプログラムであり、定員も限られていることから、できるだけ多くの学生の皆さんにプログラム参加の機会を提供するという観点により、過年度にＥＵキャンパスプログラムに参加した学生の出願、および 2025 年度ドイツ語・異文化理解ＥＵキャンパスプログラムとの併願はできません。

15. その他

(1) 宿泊先

テュービンゲン大学寮（ＥＵキャンパスからバスで約 15 分）

(2) 食事

無（参加費用に含まれない）

(3) 同行員

同志社大学の教職員や添乗員は同行しません。**現地集合**、**現地解散**となります。
※テュービンゲン大学内のＥＵキャンパスに同志社大学の職員が駐在しています。

(4) 参加費用

●含まれるもの

プログラム費：寮費（敷金・リネン代含む)、ドイツの医療保険料、留学前準備プログラム費用、事務諸経費等が含まれます。現地学費は、同志社大学が負担します。

※寮の敷金として 600 ユーロを納めていいただきます。修繕などの必要がなければ、帰国後返還されます。

●含まれないもの

※上記のほかは含まれません。参考のためにその一部を例示します。

往復航空券（ご自身で手配いただきます）／航空保険料・燃油費／日本・現地空港諸税／海外旅行保険料（日本）／超過手荷物料金／日本国内での移動にかかる交通費／現地バスの定期代（約 150€）／テュービンゲン大学へのセメスター登録費用（約 100€)、ドイツ滞在許可申請費用（約 50€）／食費／現地フィールドワークにおける食費・お土産代など／その他個人的生活費用

(5) 航空券

現地集合・現地解散とし、現地への渡航及び現地からの帰国の航空券は各自で手配をいただくことになります（各自、最終授業日から 1 週間以内に帰国)。渡航においては、2025 年 9 月 1 日（月）午前開始予定のオリエンテーションに参加できるスケジュールで手配をしてください。

(6) 費用の支払い

参加決定者に詳細を連絡しますので、指定された期日までに納入してください。

(7) 査証

日本や EU 加盟国の国籍を有する人は、ビザなしでドイツに入国した後に、長期滞在許可を申請します。
上記以外の国籍の方は、日本で事前にビザを申請しなければならない可能性があります。

(8) オリエンテーション・説明会

合格者オリエンテーション（2025 年 2 月 6 日を予定）の他、第二回オリエンテーション（2025 年 4 月下旬実施予定)、出発前に行われる危機管理オリエンテーション（2025 年 7 月上旬実施予定）への参加が必須です。

(9) 学籍

プログラム参加中の学籍は「在学留学」となります。参加者の所属学部で、書類提出等の手続きが必要となりますので、詳細は参加が決まった方へ改めてお知らせします。

英語能力測定値

60点を基準点とし、CEFRの基準により100点満点で評価します。基準点未満は出願不可とします。

CEFR C1以上：100点
IELTS™ 7.0以上／TOEFL iBT® 95以上／実用英語技能検定 1級（CSE2600点以上）

CEFR B2 High：90点
IELTS™ 6.5／TOEFL iBT® 87～94／実用英語技能検定 1級（CSE2500～2599点）
実用英語技能検定 準1級（CSE2500点以上）

CEFR B2：80点
IELTS™ 5.5～6.0／TOEFL iBT® 72～86／実用英語技能検定 1級（CSE2304～2499点）
実用英語技能検定 準1級（CSE2300～2499点）

CEFR B1 High：70点
IELTS™ 5.0／TOEFL iBT® 62～71／実用英語技能検定 準1級（CSE2183～2299点）
実用英語技能検定 2級（CSE2183点以上）

CEFR B1：60点
IELTS™ 4.0～4.5／TOEFL iBT® 42～61／実用英語技能検定 準1級（CSE1980～2182点）
実用英語技能検定 2級（CSE1950～2182点）

実用英語技能検定で各級の合格基準スコアに満たない場合であっても CSE スコアに基づいて表示されたCEFRレベルで評価します。

※TOEFL®、TOEFL ITP®、TOEFL iBT®、TOEIC®はエデュケーショナル・テスティング・サービス（ETS）の登録商標です。

★問合せ先

プログラム全般に関すること　今出川校地 国際センター国際課（扶桑館1階）
京田辺校地 国際センター国際課（嗣業館1階）
【TEL: 075-251-3260　E-mail: ji-kksai@mail.doshisha.ac.jp】
科目履修・単位に関すること　各所属学部窓口